

2年担任 正木 元太 教諭 の紹介

「恩返し」の心を育む教育

人は多くの支えの中で生きています。家族や友達、地域の方々、そして日々関わる多くの人々から受けた温かさや励ましに、どのように気づき、どのように応えていくのか……。その根底にある「恩返し」の心は、子どもたちの人間性を豊かに育む大切な価値の一つであると考えます。

2年担任の正木元太教諭の実践には、この「恩返し」の意味を子どもたち自身が実感をもって捉えられるようにする工夫が随所に見られます。単に「ありがとう」と言葉で伝えるだけでなく、自分が受けてきた思いや支えに気づき、それを行動として表そうとする心の動きに丁寧に寄り添っている点が印象的です。

子どもたちは、これまでの生活の中で多くの人に支えられてきたことに気づき、その一つ一つを振り返りながら、「自分には何ができるのか」を考え始めます。そして、その思いを実際の行動へとつなげていく過程には、学びが生活と深く結びついた姿が見られます。

正木教諭のすばらしさは、こうした子どもたちの内面の変化を見逃さず、小さな気づきや思いを大切に育てているところにあります。教師から与えられる価値としてではなく、子ども自身が「恩返し」の意味を見いだしていくように導いている点に、教育の本質を見る思いがいたします。

また、子どもたち同士の関わりの中でも、互いを思いやる言動が自然と生まれている様子からは、安心して心を表現できる学級の温かさが感じられます。こうした



環境づくりもまた、正木教諭の日々の丁寧な関わりの積み重ねによるものと言えるでしょう。

「恩返し」の心は、やがて社会の中で人と人をつなぐ大切な力へと育っていきます。正木教諭の実践は、その礎をしっかりと子どもたちの中に築いているものと感じています。